

日語研究

一般言語学

南三宅英徳

言語研

B. ポティエ

# 一般言語学

—理論と記述—

三宅徳嘉 訳  
南英孝



岩波書店

一般言語学

1984年7月25日 第1刷発行 ©

定価 7800 円

訳 者 三 南 やけ 宅 のり 德 よしが 嘉 孝  
みなみ たて 館 ひで 英 たか

発 行 者 緑 川 亭

〒101 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5  
発行所 桜岩波書店  
電話 03-265-4111  
振替 東京 6-26240

印刷・精興社 製本・牧製本

落丁本・乱丁本はお取替いたします Printed in Japan

**LINGUISTIQUE GÉNÉRALE**—théorie et description

by Bernard Pottier

Copyright © 1974 by Editions Klincksieck, Paris

This book is published in Japan by  
Iwanami Shoten, Publishers, Tokyo by arrange-  
ment with Éditions Klincksieck, Paris.

## 日本語版への序言

「知者不言  
言者不知」  
『道德經』五十六章

言語活動を説明しようとするのは、したがってそれが何であるかを完全に理解していないことを自状することになる。

この書物を著したのは 1974 年のことである。以来、機会をとらえて、発展させた点、充実をはかり修正を施した分析も相当数あるが\*、全体としての態度に変わりはない。私は、言語活動が記号表意の表現と伝達にもとづいており、統辞と

能記の事実はこれに従うものであるという確信を強めてきている。自然言語の意味の仕組は、言語ごとに表現手段こそ異なりはするものの、本性は同じである。諸言語の多様性は「自明」であるけれども、人間思考が基本的に一つであることと関連づけて考えなければならない。

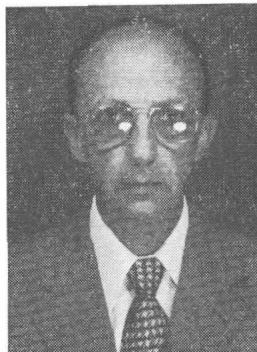
言語学者は、自らの見解を絶えず問い合わせ直して、これをいっそう精緻にし、包括的にし、自民族中心の偏見を棄てるようにしなければならない。日本との接触は、私にとって、省察と充実の源泉となった。この交流が本書を通してさらに続くことを願うものである。

最後に、この書物の翻訳とまとめに当たられた同学の友に対し、深甚の感謝の念を表したい。それがいかに難事業であるか、私は知っている。友人たちが仕事にそそいだ熱意たるや、その専門家としての技能の他にその比を見ないほどのものである。

1980 年 3 月

ベルナール・ボティエ

\* 「ギヨームと「道」：前と後、陽と陰」、『言語活動と言語活動の精神機構論 ロック・ヴァラン教授記念論集』*Langage et psychomécanique du langage. Pour Roch Valin*, Lille, 1980 に収録。



「時間と空間」, 『ジェラール・モワニエ追悼論文集』*Hommage à Gérard Moignet, Tralili*, Strasbourg, 1980 に収録.

「格の理論」, 『論理モデルと言語分析のレベル』*Modèles logiques et niveaux d'analyse linguistique*, Paris, 1976, pp. 131–140 に収録.

「フランス語の態」, 『語彙論研究誌』*Cahiers de lexicologie*, t. 33, 1978, pp. 3–39 に収録.

## まえがき

今日、言語学は他の諸々の大衆現象と同じ様相を呈している。それはやりすたりはめまぐるしく、われわれはただ戸惑うばかりである。ギヨーム理論、構造主義、変形文法理論の唱導者たちは次々に言語科学に興味深く滋養豊かな視点を提供してきた。だが研究は果てるところがない。今後とも新しい総合理論が引き続き生まれ出てきてしかるべきなのである。

本書はいさか寄せ集め的であると見えるかもしれない。しかしこれは1955年に提出した学位論文『関係要素の体系論』*Systématique des éléments de relation* の帰結なのである。この間に、データを整理した最初の試みが1967年に『言語学提要』*Présentation de la linguistique* の題のもとに上梓され、またこれをそれぞれスペイン語およびポルトガル語に応用したものも出されている。

言語学者は、まず観察可能なものから出発して、直接観察不能なものについて仮説を立てるのである。それは自らの新たな観察にさらに首尾一貫した説明を与えるためなのである。そのために、言語学者はいくつかの自然言語を材料として踏まえ、個別と一般との間を絶えず行き来するのである。確かに言語はどれもみな異なっているが、しかしそこに人々見出せる共通の特徴を問題にするほうが一層興味をかき立てる。そのうえまた、われわれが送るメッセージは決して「純粹」なものではなく、書いたり言ったりしているものに決して還元し尽せるものではないのである。そこから、意思伝達の場において、「明示されたもの」*l'explicite* の傍らに「暗示されるもの」*l'implicite* をも検討する必要性が生まれてくるのである。

以上の事情から、本書は思素のための手引書と考えるのが適当であることが理解されるであろう。説明にはある現象をはっきり示すために例を挙げてあるが、無論この他にも例は何倍にも増やせたろうし、ここには引用されていない他の多くの言語についても例を挙げることはできたのである。どの段章をとってみてもそれぞれひとつのモノグラフィの対象とすることもできるであろう。

本書の意図するところは言語界を理論と記述の両面から均衡のとれた全体像として提示

することであった。これは意思伝達および言語表現の研究に必須である。私がここで明確にしたかったのは言語のメカニズムの核心部なのである。言語活動に関して研究する限り、この点こそが何よりもまず根本問題であると思ったからである。

言語学者は、適正な術語法を所有する必要から逃れることはできない。ここで使用される術語には解説を付けてあり、それら術語の価値は概念体系中に占めるそれぞれの位置から引き出されてくる。

なお、一言お断りしておくが、本書に占める意味研究の割合の大きさに驚かないでいただきたい。ある学派では統辞論が最大の関心事と考えられてきたが、そのようなことがありえたとは今ではまるでうそのようである。良識がついに勝利を収めることになったのである。ヨーロッパの意味研究は脈々と存続してきたのであり、そして本書はそれが今も健在であることのひとつの証しともなればと思うものである。

B. P.

## 省略記号一覧

|         |                                |             |
|---------|--------------------------------|-------------|
| ACC     | accusatif (cas)                | 対 格         |
| Act.    | actance                        | 役割構成        |
| Adj.    | adjectif                       | 形容詞         |
| AGE     | agentif (cas)                  | 動作主格        |
| <br>B   | <br>base                       | <br>基 部     |
| BEN     | bénéfactif (cas)               | 受益格         |
| <br>C   | <br>classème                   | <br>類素性     |
| CAU     | causal (cas)                   | 原因格         |
| Co      | niveau conceptuel              | 概念 レベル      |
| <br>DAT | <br>datif (cas)                | <br>与 格     |
| Dép.    | dépendance                     | 依存関係        |
| DES     | descriptif (voix)              | 記述態         |
| Dés.    | désignation                    | 指 称         |
| Dét.    | déterminant                    | 限定詞         |
| <br>E   | <br>zone d'expérience spatiale | <br>空間の経験領域 |
| EN      | énoncé                         | 言 表         |
| EQU     | équatif (voix)                 | 等式態         |
| ERG     | ergatif (cas)                  | 能 格         |
| <br>F   | <br>formulation                | <br>表示方式    |
| F3      | formulation qualitative        | 質表示方式       |
| F2      | formulation locutive           | 話表示方式       |

|          |                               |           |
|----------|-------------------------------|-----------|
| F1       | formulation modale            | 様態表示方式    |
| F4       | formulation quantitative      | 数量表示方式    |
| fA       | fonctème adjectival           | 形容詞機能素    |
| FIN      | final (cas)                   | 目的格       |
| fN       | fonctème nominal              | 名詞機能素     |
| Form.    | formulation                   | 表示方式      |
| fV       | fonctème verbal               | 動詞機能素     |
| <br>     |                               |           |
| g        | groupe                        | 句         |
| G        | grammème                      | 文法(形態)素   |
| <br>     |                               |           |
| I (Ind.) | indicateur                    | 指標辞       |
| INS      | instrumental (cas)            | 道具格       |
| <br>     |                               |           |
| JE       | émetteur du message           | メッセージの送り手 |
| <br>     |                               |           |
| L        | lexème                        | 語彙(形態)素   |
| LN       | langue naturelle              | 自然言語      |
| LOC      | locatif (cas)                 | 位格        |
| <br>     |                               |           |
| MA       | élément marginal              | 周縁要素      |
| <br>     |                               |           |
| N        | zone d'expérience notionnelle | 知見の経験領域   |
| NOM      | nominatif (cas)               | 名格        |
| NU       | nucléus                       | 核文        |
| <br>     |                               |           |
| POS      | possessif (voix)              | 所有態       |
| PR       | prédicat                      | 述部        |

|        |                              |           |
|--------|------------------------------|-----------|
| Quant. | quantitatif, quantificateur  | 数量的, 数量詞  |
| R      | référent                     | 言及対象      |
| Rel.   | relateur, relation           | 関係辭, 関係   |
| S      | sémantème                    | 意味素性      |
| Sa     | plan du signifiant           | 能記面       |
| Sb.    | substantif                   | 実体詞       |
| SE     | schème d'entendement         | 了解図式      |
| Sé     | plan sémantique              | 意味面       |
| SI     | schème intégré               | 統合図式      |
| SIT    | situatif (voix)              | 状況態       |
| SN     | syntagme nominal             | 名詞連辭      |
| SOC    | sociatif (cas)               | 共格        |
| SV     | syntagme verbal              | 動詞連辭      |
| Sy     | plan syntaxique              | 統辭面       |
| T      | zone d'expérience temporelle | 時間の経験領域   |
| TR     | transfert                    | 転移        |
| TU     | destinataire du message      | メッセージの名宛人 |
| V      | virtuème                     | 潜在素性      |
| Vb.    | verbe                        | 動詞        |
| W      | auxiliaire                   | 補助動詞      |
| WD     | auxiliaire de déroulement    | 展開の補助動詞   |
| WM     | auxiliaire de modalité       | 様態の補助動詞   |
| Z      | substitut                    | 差し換え辭     |

|      |                        |
|------|------------------------|
| *    | あまり文法に合わない、または文法に合わない  |
| / /  | 音韻表記                   |
| [ ]  | 音声表記                   |
| { }  | 当該の集合                  |
| ∩    | 論理上の交わり                |
| ε    | ある集合をつくる要素             |
| ≠    | 対立する                   |
| ⇒    | 含意する                   |
| ⊟    | 含意しない                  |
| ヨ    | 存在する、存在詞               |
| ∽    | 交替記号                   |
| ～    | 力性に無縁                  |
| +,-  | 力性を担う、担わない             |
| +, - | 後の位置、前の位置              |
| <    | 由来する                   |
| >    | 帰着する                   |
| ○    | 名詞機能素(または名詞連辞、または実体詞句) |
| —○   | 述部となる名詞機能素             |
| —□   | 形容詞機能素(または形容詞)         |
| ■    | 動詞機能素(または動詞連辞、または動詞句)  |
| ■    | 補助動詞                   |
| ⊗    | 名詞要素が置かれる位置: <そのこと>    |
| ●    | 本体(概念レベル)              |
| ■■■  | 行動(概念レベル)              |
| ▶    | 表示方式(概念レベル)            |
| [ #  | ほぼ同等である ]              |
| [ ⊂  | 包含する ]                 |

# 目 次

## 日本語版への序言

まえがき

省略記号一覧

## 第1部 言語活動と意思伝達

|    |                 |    |
|----|-----------------|----|
| 1. | 言語による意思伝達 ..... | 3  |
| 2. | 言語記号 .....      | 8  |
| 3. | 言語のメカニズム .....  | 18 |

## 第2部 概念図式から言語図式へ

|    |                |    |
|----|----------------|----|
| 1. | 概念レベルの仮説 ..... | 25 |
| 2. | 言語図式 .....     | 36 |

## 第3部 言 語 技 能

|     |               |    |
|-----|---------------|----|
| A.  | 所記の実質 .....   | 47 |
| I.  | 意味分析 .....    | 47 |
| 1.  | 原 則 .....     | 47 |
| 2.  | 分析意味論 .....   | 57 |
| 3.  | 図式意味論 .....   | 68 |
| 4.  | 総括意味論 .....   | 69 |
| 5.  | 記号表意の関係 ..... | 72 |
| II. | 指 称 .....     | 91 |
| 1.  | 集合の規定 .....   | 91 |

|                         |            |
|-------------------------|------------|
| 2. 範例関係 .....           | 92         |
| 3. 連辞関係 .....           | 96         |
| 4. 意味関係図 .....          | 99         |
| <b>III. 関 係 .....</b>   | <b>101</b> |
| <b>A. 態 .....</b>       | <b>101</b> |
| 1. 一般的考察 .....          | 101        |
| 2. 態が表す内容 .....         | 104        |
| <b>B. 格 体 系 .....</b>   | <b>118</b> |
| 1. 一般的考察 .....          | 118        |
| 2. 格の実例 .....           | 124        |
| 3. 格標識の体系 .....         | 130        |
| 4. 格の領域間の流動性 .....      | 138        |
| <b>C. 視像構成 .....</b>    | <b>142</b> |
| 1. 方向づけ, 視点, 選び取り ..... | 142        |
| 2. 視像構成の態への適用 .....     | 144        |
| <b>D. 統 合 .....</b>     | <b>152</b> |
| 1. 統合のメカニズム .....       | 152        |
| 2. 形容詞化 .....           | 157        |
| 3. 総 合 .....            | 161        |
| 4. 位相統合 .....           | 164        |
| 5. 関係辞統合 .....          | 168        |
| <b>IV. 表示方式 .....</b>   | <b>171</b> |
| はじめに .....              | 171        |
| <b>A. 様態表示方式 .....</b>  | <b>172</b> |
| 全体の見通し .....            | 172        |
| <b>I. 様 態 .....</b>     | <b>173</b> |
| 1. 一般的考察 .....          | 173        |

## 目 次

xi

|                            |     |
|----------------------------|-----|
| 2. 様 態 軸 .....             | 174 |
| 3. 叙 法 .....               | 186 |
| 4. 様態のつなぎ要素 .....          | 187 |
| II. 断 定 .....              | 189 |
| 1. 一般的の考察 .....            | 189 |
| 2. 設 問 .....               | 190 |
| 3. 否 定 .....               | 192 |
| 4. 強 調 .....               | 196 |
| III. 展 開 .....             | 197 |
| 1. 一般的の考察 .....            | 197 |
| 2. 階 相 .....               | 200 |
| 3. 状態変化 .....              | 201 |
| 4. 相対関係 .....              | 202 |
| IV. 限 定 .....              | 204 |
| 1. 一般的の考察 .....            | 204 |
| 2. 限定のタイプ .....            | 205 |
| V. さまざまな様態表示方式間の類縁関係 ..... | 212 |
| 1. 意味上の類縁関係 .....          | 212 |
| 2. 結合関係 .....              | 214 |
| B. 話表示方式 .....             | 216 |
| はじめに .....                 | 216 |
| I. 人 称 .....               | 216 |
| 1. 三つの人称 .....             | 216 |
| 2. 人称の結合関係 .....           | 217 |
| 3. 人称がもつ種々の性格 .....        | 218 |
| 4. 人称関係の表明 .....           | 220 |
| II. 話 行 為 .....            | 220 |
| 1. 三つの話形式 .....            | 220 |

|                        |            |
|------------------------|------------|
| 2. 交話関係 .....          | 220        |
| <b>III. 指 呼.....</b>   | <b>222</b> |
| 1. 空間の指呼 .....         | 222        |
| 2. 時間の指呼 .....         | 225        |
| 3. 知見の指呼 .....         | 227        |
| <b>C. 質表示方式 .....</b>  | <b>228</b> |
| はじめに.....              | 228        |
| <b>I. 性 質.....</b>     | <b>228</b> |
| 1. 物質性 .....           | 228        |
| 2. 連続体 .....           | 229        |
| 3. 生物 .....            | 230        |
| 4. 有性 .....            | 232        |
| 5. 生きている .....         | 233        |
| 6. 有力性 .....           | 233        |
| 7. 特称性 .....           | 235        |
| 8. 讓与可能性 .....         | 236        |
| 9. 種々の類別詞 .....        | 237        |
| <b>II. 特 性.....</b>    | <b>240</b> |
| 1. 移行性 .....           | 240        |
| 2. 変形性 .....           | 242        |
| 3. 完了性 .....           | 244        |
| 4. 繼続性 .....           | 245        |
| <b>D. 数量表示方式 .....</b> | <b>247</b> |
| はじめに.....              | 247        |
| <b>I. 倍 数.....</b>     | <b>248</b> |
| 1. 非 数 .....           | 248        |
| 2. 両数・三数 .....         | 249        |
| 3. 集合詞と個別詞 .....       | 249        |

|                                  |     |
|----------------------------------|-----|
| 4. 単数と複数 .....                   | 250 |
| 5. 数 詞 .....                     | 251 |
| 6. 数 量 化 .....                   | 251 |
| II. 強 度 .....                    | 254 |
| 1. どちらかというと客観的な強度 .....          | 254 |
| 2. どちらかというと主観的な強度 .....          | 255 |
| 3. ひろがり(次元) .....                | 255 |
| III. 同 定 .....                   | 256 |
| IV. 等位づけ .....                   | 258 |
| V. 比 較 .....                     | 259 |
| B. 所記の形相 .....                   | 262 |
| I. 統辞モデル .....                   | 262 |
| 1. 言 表 .....                     | 262 |
| 2. 機能素, すなわち言表の構成要素 .....        | 269 |
| II. 内的構造化 .....                  | 302 |
| 1. 機能素から範疇への構造 .....             | 302 |
| 2. 語彙単位の構造 .....                 | 326 |
| III. 差し換え辞 .....                 | 336 |
| 1. 名詞機能素のレベル .....               | 336 |
| 2. 形容詞機能素(および述部の名詞機能素)のレベル ..... | 340 |
| 3. 動詞機能素のレベル .....               | 340 |
| 4. 言表レベル .....                   | 340 |
| 5. 総称的差し換え辞 .....                | 341 |
| IV. 範疇の所記 .....                  | 343 |
| 1. 所記の形相 .....                   | 343 |
| 2. 形相の意味効果 .....                 | 345 |